

「長篠・設楽原の戦い」の学習を通して

- 新城市立東郷東小学校 -

1 実践のねらい

天正3年5月21日の早朝、5万3千の兵の歓声とともに始まった「長篠・設楽原の戦い」の史跡に囲まれている。地域の信玄原では、400年以上前から今日に至るまで「火おんどり」と名づけられた祭りが続けられ、人々は戦いで討ち死にした多くの武将の霊を慰めてきた。昭和55年には「設楽原をまもる会」が結成され、平成2年から「設楽原決戦場まつり」を開催して、多くの遺跡を守るとともに、命の尊さと平和のありがたさを訴えてきた。

学校では、全校でこの「設楽原決戦場まつり」に参加し、地域とともに祭りを盛り上げていくことが大切だと考えている。それは、祭りに取り組む人々の動きや言葉のひとつひとつから、子どもたちは、地域の人々の祭りに対する思いを感じ取ることができるからである。

さらに、運動会創作ダンス「合戦と農民」と系統性を持たせ、命あることに感謝し、他の命も大切にするという人としての心の育ちにつなげたい。

2 実践の内容

(1) 「長篠・設楽原の戦い」についての学習<総合的な学習の時間：9時間、社会科：1時間>

「長篠・設楽原の戦い」について学習し、その時代に生きたさまざまな立場の人々の心情や人柄を知る。

地域での取組とそれを支える人々の思いについても、地域から講師を招聘して明らかにする。

- ・ 4月から6月にかけて延4回
- ・ 講師：設楽原をまもる会会長、長篠設楽原古銃研究会会長・設楽原鉄砲隊長、川路史跡研究会会長

【児童の感想】

私は、馬場美濃守の生き方を知って、人の命はどういうものなのかということを考えるようになりました。それとともに、設楽原の戦いで命を散らしていった人々は、どういう気持ちで戦っていたのかということを考えるようになりました。

名もない兵たちは、本当は戦いなんかしたくなかったのではないかな。無理に戦いに連れてこられたのではないかな。

- (2) 「設楽原決戦場まつり」のための鎧や兜の制作 < 総合的な学習の時間 : 2 7 時間、
 図画工作科 : 2 時間 >

5 月上旬から 6 月下旬にかけて、設楽原をまもる会会員の方を講師に招き、随時、
 旗指物、鎧、兜づくりの学習を行うとともに、制作する。

- (3) 「設楽原決戦場まつり」への参加 < 総合
 的な学習の時間 : 2 時間、学校行事 2 時
 間 >

7 月 3 日 (日)、第 1 6 回設楽原決戦場
 まつりに全校で参加

馬防柵再現地への武者行列を行う。



- (4) 創作ダンス「合戦と農民」 < 体育科 : 7 時間、総合的な学習の時間 : 5 時間 >



9 月 2 3 日 (金) 運動会での 4 ~ 6 年
 生による創作ダンス「合戦と農民」は、
 集団での美しさや決戦での武将の勇壮
 な姿、その戦いに翻弄される農民の生
 活、戦いのあとの人々の願いなどを表現
 する。

3 おわりに

地域の方々とともに活動することで、直にその思いが子どもたちに伝わり、それ
 に共感したり、考える材料にしたりすることができる。

戦いに関する武将の生き方、考え方を学び、鎧・兜づくりに取り組むという学習
 に基づき、真剣に生き、思いを胸に死んでいく武将や農民の演技をすることを通し
 て、命の大切さ、生きることの素晴らしさを考える子どもになる。

この地を守ってきた地域の方々思い表現することは、この地の人々の心の温か
 さを知ることになる。これは、ふるさとを大切に人間としての育ちにつながる
 と思われる。またこの地を離れ、別の地で生活することになっても、そこをふるさ
 ととして興し、守っていこうとする心をもつ人間になると思われる。